

平成30年の10大ニュース

順位	項目	説明
1	パラリンピックの事前キャンプ実施に関する基本合意書を締結	10月24日、秋田県と大館市は、タイ脳性麻痺スポーツ協会と、東京2020パラリンピック競技大会におけるナショナルチームの事前キャンプ実施に関する覚書を締結。12月16日には、基本合意書を締結。これにより、2020年8月25日から開催される東京2020パラリンピック競技大会のボッチャ競技と陸上競技の事前キャンプが本市で行われることとなった。
2	JR大館駅前の観光交流拠点施設の愛称「秋田犬の里」に決定	県あきた未来づくり協働プログラム事業において、平成28年3月に認定の「ハチ公と歴史に触れる交流人口拡大プロジェクト」事業で進めていた、観光交流拠点施設の愛称が「秋田犬の里」に決定した。 拠点施設は、平成31年5月のグランドオープンを目指し工事を進めている。
3	「マサル」のきょうだいである「勝大」を譲り受ける	秋田犬本部展において、アリーナ・ザギトワ選手に贈られる秋田犬の「マサル」がお披露目されたのと同時に、「マサル」のきょうだいである「勝大」を大館市が譲り受けることを発表。勝大は10月から「マサルのきょうだい」として、秋田犬及び大館の魅力を発信のため活躍している。
4	病院職員が相次いで酒気帯び運転により検挙される	10月に医師並びに技師が道路交通法違反「酒気帯び運転」の容疑で相次いで検挙された。医師は退職願を提出し、同月末日付で退職した。技師については、11月に「大館市職員分限懲戒審査委員会」の答申に基づき、停職5か月の処分、管理監督責任として診療局長、副診療局長、技師長に対し訓告等の処分を行った。
5	祝！大館能代空港開港20周年	秋田県北部圏民の悲願であった大館能代空港の開港から、今年で20周年を迎えた。近年、利用者数は増加傾向で、5月15日には大館能代空港利用促進協議会へ弘前市が加入するなど、北東北と首都圏を結ぶ空の玄関口として中心的な役割を果たしている。3月に空港と東北自動車道が直接つながり、その利便性が大きく向上した。
6	大館管内の有効求人倍率が過去最高となる	ハローワーク大館管内の9月の有効求人倍率が過去最高の1.76倍となり、8月の1.74倍に続き、2カ月連続で過去最高を更新。ほとんどの業種の求人数が高水準で推移していることに対し、求職者数が減少傾向にあることが要因。労働力の確保と求人・求職のミスマッチ解消が課題となっている。
7	弘前消防と相互応援協定締結	5月11日、大館市と弘前地区消防事務組合が消防相互応援協定を締結。昭和52年に締結の「救急相互応援協定」を一新し、救急応援から大規模火災等まで対応できることとなり、有事の際の消防力が強化されることとなった。
8	みちのくアラート2018へ参加	自衛隊や東北六県の自治体、各関係機関が一体となって実施した大規模な訓練で、11月11日に本市のほか北秋田市、小坂町などが参加し、大館能代空港から市内及び小坂町への物資輸送訓練、日治道駅迎内パーキングエリアでの輸送車両への燃料補給訓練、自衛隊ヘリによる旧雪沢小学校グラウンドへの物資空輸訓練が展開された。
9	旧正札竹村本館棟解体工事に着手	6月から老朽化や損傷が著しい旧正札竹村本館棟解体工事へ着手した。着工後、新たに石綿を含む吹き付け材が発見されたため、石綿除去費を増工し、工期を3か月間延長した。2020年3月末に解体工事が完了予定である。
10	教育ツーリズムによる交流人口の拡大	8月に首都圏の親子を対象にしたサマースクール初開催、10月には育ちと学び支援事業フォーラムを、11月には学力向上フォーラムを開催するなど、多くの関係者が本市を訪れた。また、共栄大学との教育実習生受け入れに関する協定を締結し、2名の実習生を受け入れるなど、教育ツーリズムで本市を訪れた人は46件、1,391人に上った。